

I. 過去の姿

相当努力して開発されて
きたが産出量は少かった

日本の油田はその開発の歴史はかなり古いものもあるが、多くは規模が小さくて、現在までに累計100万KL以上を産した大油田としては秋田県の黒川、八橋、新潟県の新津、東山、西山の5油田を数えるにすぎない。

下掲の累年産油量表は、国内に次々と油田が発見され、稼行され、そして多くは急激に衰えていつた沢山の油田の歴史の積み重ねを示している。即ち大きな油田や豊富な油層が発見された時には産出量が大きく増すが、やがて衰えていく姿がよく読みとれる。

従つて産出量を大きく増すためには豊富な新油層や新油田を発見するのが、まず必要であることがこの表からよくわかる。

しかし何にしても国内需要を満たすことは余りにも少かつたことは、右図の需給表が示す通りである。

國産および輸入原油量対照図
昭和5年一昭和29年

